

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立東調布第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・達成率で全国平均を1ポイント以上上回る結果であった。問題解決学習の流れを意識して指導することで、解決すべき学習問題を理解し、学習に見通しをもって取り組むことができる児童が増えてきたと言える。
- ・学年によっては、主体的に学習する態度について目標値を4ポイント以上上回る結果であった。ペアやグループでの意見交流を日常的に授業に取り入れたことで、予想や考察において自分の考えをもち、その考えを伝えることができる児童が増えてきたと言える。

(2) 課題

- ・「知識・技能」の定着に課題がある。既習の用語や現象を記述で回答することが難しい。学習内容が定着している児童と定着していない児童との差が学年を経るごとに広がっている。
- ・自分の考えを表現することができる児童は増えたが、根拠を示して説明することができる児童が少ない。
- ・既習事項や生活経験と結び付けて考えたり、複数ある考えを比較して共通点や差異点に気付いて適切な考えを選択したりする力を高める必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	全国の平均値を 1.8ポイント上回った。		
第5学年	全国の平均値を 1.2ポイント上回った。	全国の平均値を 0.3ポイント上回った。 (第4学年時)	
第6学年	全国の平均を 1.8ポイント上回った。	全国の平均値を 1.0ポイント上回った。 (第5学年時)	全国の平均値を 0.2ポイント下回った。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第4学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を3.5ポイント上回った。設問別にみると、概ね目標値を上回っており、「知識・技能」の力が身に付いているといえる。しかし、「植物の育ち」と「こんちゅうのからだのつくり」では目標値を下回っていた。	目標値を1.4ポイント下回った。設問別にみると、概ねの領域で理解はできているが、「植物の育ち方」、「太陽と地面のようす」、「じしゃくのせいしつ」で、目標を下回っていた。	目標値を4.9ポイント下回った。概ね理解できている領域が多いが、設問別にみると、「じしゃくのせいしつ」で、目標を下回っていた。特に「じしゃくのせいしつ」では、実験の根拠を書く問いに答える正答率が全国平均を下回った。

--	--	--

② 第5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を2.1㊦下回った。設問別にみると、ほとんどが目標値を下回っており、「知識・技能」の定着が不十分といえる。その中でも、特に「1年間の動物のようす」「水のすがた」が大きくポイントを下回っていた。	目標値を3.1㊦下回った。設問別にみると、ほとんどが目標値を下回っており、「思考・判断・表現」の定着が不十分といえる。その中でも、特に「電気のはたらき」「水のすがた」が大きくポイントを下回っていた。	目標値を3.0㊦下回った。設問別にみると、ほとんどが目標値を下回っており、「主体的に学習に取り組む態度」の定着が不十分といえる。その中でも、特に「1年間の動物のようす」「自然の中の水」が大きくポイントを下回っていた。

③ 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を0.1㊦下回った。設問別にみると、「魚のたんじょう」「天気の変化」など、目標値を上回っているが、「人のたんじょう」では10㊦以上、下回っているため、課題があるといえる。	目標値を1.7㊦上回った。設問別にみると、「植物の発芽と成長」では、「思考・判断・表現」する力が身に付いている。「ふりこのきまり」、「物のとけ方」の記述では目標値を下回っていた。	目標値を4.2㊦上回った。設問別にみると、概ね目標値を上回っているが、「物のとけ方」では、実験の結果を予測し、理由を説明する正答率が平均を下回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常的に、問題・予想・実験・結果・考察、まとめの学習活動の流れを定着させる。特に、中学年の目標として、問題・予想について重点をおいて指導する。 ・観察・実験の結果を基にして、学習内容を振り返る時間を取り、体験から知識の定着を図る。一人一人観察・実験する機会や、実験方法・実験結果を確認する時間を十分にとる。 ・直接、実験や観察ができないものや分かりにくいものについては、ICT 機器を積極的に活用して授業を行い、全員が理解を深められるようにする。	・疑問に思ったことから学習課題を立て、自分たちで主体的に問題を解決できるようにする。 ・実験について予想を立て、一つの事象からどんなことが考えられるか、日常生活の経験と結び付けて考えさせる。 ・予想と結果を比較し、自分の予想との違いを書くことで、考えを深められるようにする。	・自然事象に興味をもち、日常生活と結び付けて考えるように、身近な事象や既習事項をもとにして導入を工夫する。 ・実験結果、観察結果や資料から読み取ったり考察したりする際、自分の言葉で文章にまとめたり、それをグループや学級全体で検討したりする活動を設定する。 ・単元のはじめに既習事項を想起させ、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

--	--	--

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・一人一人に実験器具を操作させて使い方を確認したり、自然事象や現象について視聴覚資料を基に考えさせたりして、「実感を伴った理解」を図る。 ・学習問題の確認を行い、自ら問題意識をもち、見通しをもって観察・実験をする活動を重視していく。 ・ICT 機器を活用し、視聴覚資料を提示したり、既習事項の復習をしたりして、知識の定着を図る。	・生活の中の事象について、科学的な見方や、根拠をもって予想を立てることなどを指導し、科学的な見方、考え方の理解につなげる。 ・実験、観察の結果を図や表、グラフなどを使って整理し、考察を自分の言葉で表現する力を育成する。 ・考えを比較してよりよい考えや正しい実験方法を選んだり、考察したりできるようにする。 ・第5学年では「条件制御」、第6学年では「推論」に着目させ、計画的に実験が進められるようにする。	・自然事象に興味をもち、日常生活と結び付けて考えていけるように工夫する。 ・小グループや学級全体での話し合いを行い、友達の考えとの共通点や差異点に気付き、よさを取り入れて学習できるようにする。 ・単元の初めに、児童の疑問をもとに学習計画を立てることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

4 重点指導事項

○ICT 機器を活用し、資料を提示したり、既習事項を確認したりして、基礎的な知識、理解の定着を図る。
(知識・技能)

○中学年：実験について予想を立て、一つの事象からどんなことが考えられるか、日常生活の経験と結び付けて考えさせる。(思考・判断・表現)

高学年：実験、観察の結果を図や表、グラフなどを使って整理し、考察を自分の言葉で表現する力を育成する。(思考・判断・表現)

○単元や授業の初めに既習事項を確認する。また、学習計画を提示することを通して、主体的に学習に取り組むことができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)